

営農だより 野菜版 3号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2026年(令和8年)6月5日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

お茶の病害防除

～防除を行い、高品質な生葉生産を目指しましょう！！～

一番茶の収穫も終わり、整枝を済ませている茶園も多いと思います。最終整枝後に病害防除を行い翌春の一番茶の親葉を充実させ、高品質な生葉生産を目指しましょう！

1. 防除時期

最終整枝後、約30日で萌芽(ほうが)が始まります。まず、1回目の防除は1葉開葉期に行います。そして、約10日後の3葉開葉期に2回目の防除を行います。

※萌芽とは、茶の芽が出てくること。

2. 開葉期について

萌芽	1葉開葉期	2葉開葉期	3葉開葉期
			
	萌芽から12～15日	1葉開葉期から5～6日	2葉開葉期から5～6日

3. 病害防除の対象及び推奨薬剤

(1a当り)

防除回数	薬剤名	対象病害	倍率	使用量	収穫前
1回目	オンリーワンフロアブル	もち病、炭疽病 褐色円星病	2,000～ 3,000倍	20～40ℓ	7日前まで
2回目	カスミンボルドー	輪班病、炭疽病 褐色円星病	1,000倍	20～40ℓ	30日前まで

炭疽病：葉枯れ・落葉・樹勢低下を引き起こす最重要病害。降雨の多い6～7月、秋芽生育期の9月に発生し、新芽生育期に降雨が続くと多発します。

もち病：山間地の風通しの悪い茶園等で局地的に発生します。6～7月頃と秋芽生育期の9月に降雨・多湿条件が続くと多発し、感染後約10日で発病します。

褐色円星病：落葉・樹勢低下を引き起こします。多雨・多湿条件で感染し、初め緑斑症状を生じ褐色円星症状に進展します。潜伏期間が約1ヶ月と長く、新葉を主体に硬化した成葉にも感染します。

輪班病：枝枯れ・落葉・樹勢低下を引き起こす重要病害。摘採・整枝により生じた葉や枝梢の切口から感染します。高温時ほど発生しやすく、雨天時に摘採や整枝を行うと多発します。暴風雨による傷害発生時にも注意が必要です。

ニンジンの栽培

～冷涼な気候を好みますが、幼苗期は高温にも比較的強いので夏まき栽培が適しています！！～

1. 栽培のポイント

ニンジンの発芽率は最適条件でも60～70%なので、適温適湿条件を保って発芽率を向上させることが重要です。ニンジンの種子は吸水力が弱く、播種後に土が乾くと極端に発芽が悪くなるので、**発芽まで乾燥させない**ようにしましょう！！

2. 土づくり

元肥は播種10日前に全面施用し耕耘・碎土する。碎土が不十分だと良品は望めないなので注意が必要です。

3. 施肥

(1a当り)

	資材名	施肥量	備考
土壌改良材	粒状アヅミン苦土石灰	10kg	播種の2週間前に施用
元肥	ジアン有機s806	12kg	播種の10日前に施用
	粒状ようりん	4kg	
追肥	NK化成肥料16-0-16	4kg	2回目の間引きの時期

4. 播種

ニンジンの種子の特徴

・**発芽適温15～25℃**(発芽温度は8～30℃で35℃以上では殆ど発芽しない。)

①種子の寿命が短く発芽力が弱い。

②温度が低すぎても高すぎても発芽不良になる。乾燥に極めて弱いので注意が必要。

発芽率向上のポイント

①好光性の種子の為、土壌水分が適度である場合、**覆土は5mm程度で薄く**する。

②乾燥に弱い為なるべく降雨を待って播種するか、灌水してから播種する。

③播種直後に鎮圧して土壌と種子をなじませる。

《**除草剤を上手に使おう**》 播種後ゴーゴーサン乳剤を散布する。

薬剤名	10a当り薬量	10a当り希釈水量	使用時期	回数	使用方法
ゴーゴーサン乳剤	300ml	1000L	播種後出芽前	1回	全面土壌散布

5. 栽植密度

畝幅70cm、条間20cm、筋播きの2条とする。

6. 間引き

本葉4～5枚に行い、最終株間6～7cm程度とする。間引く株は、**葉色の濃すぎるもの、生育の良すぎるもの、生育の劣っているものを対象**とする。

7. 土壌水分管理

播種から本葉5枚頃までは初期生育を促す為、土壌水分を保持する必要があり、**乾燥時には灌水**する。本葉10枚以降は土壌水分が少なめの方が、根の着色がよく表皮も滑らかになる。

8. 病虫害防除⇒①ネキリムシ対策 ②軟腐病・斑点細菌病対策 (1a当り)

① 薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法	毒劇物
フォース粒剤	0.4～1.2kg	播種前	1回	全面土壌混和	●
② 薬剤名	希釈倍率	使用液量	収穫前	使用回数	毒劇物
スターナ水和剤	1,000倍	10～30ℓ	7日前まで	3回以内	

●は毒劇物の為、購入する際は印鑑(認印)・身分証明書を持参して下さい。

トウモロコシの防除

～高品質なトウモロコシ収穫の為、早め早めの防除を心掛けましょう！！～

トウモロコシ栽培において最大の天敵ともいえるアワノメイガをはじめ、暖かくなると様々な害虫が発生し大きな被害を及ぼします。下記に防除例を記載しますので、適期防除により高品質なトウモロコシの収穫を目指しましょう！！

【防除例】

防除回数	対象害虫	留意点	
1回目	アワノメイガ	雄穂抽出のごく始めに1回目を散布する。雄穂の上から樹体に十分かかるようにする。 目安：ほ場の10%で雄穂が見られる時期。	
2回目	アワノメイガ アブラムシ	絹糸抽出期で1回目の散布から10日後を目安に散布する。樹体に十分かかるように散布する。 目安：絹糸の抽出がほ場の10%で見られる時期。	
3回目	アブラムシ オオタバコガ	絹糸が出揃って2～3日後までに散布する。穂を中心に上部の新葉の裏にもかかるよう散布する。 目安：2回目の散布から7日後程度。	

(1a当り)

防除回数	対象害虫	薬剤名	倍率	使用量	収穫前	毒劇物
1回目	アワノメイガ	パダンSG水溶剤	1,000倍	10～30ℓ	21日前まで	●
2回目	アワノメイガ アブラムシ	アグロスリン乳剤	2,000倍	30ℓ	7日前まで	●
3回目	アブラムシ	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～ 4,000倍	30ℓ	前日まで	●
	オオタバコガ	アフアーム乳剤	1,000～ 2,000倍	30ℓ	3日前まで	

●は毒劇物の為、購入する際は印鑑（認印）・身分証明書を持参して下さい。

アワノメイガ：アワノメイガはトウモロコシの穂に卵を産み、ふ化した幼虫はその後に茎内部や子実まで侵入して雌穂（しずい）部分や実を食い荒らします。6～8月頃に被害が多発するので早めの防除を心掛けましょう！！

アブラムシ類：まず雄穂で増殖し、やがて上位葉や雌穂包皮の間に大きなコロニー（集団）がみられるようになります。アブラムシが大量に発生した株は生育が阻害されるだけでなく、アブラムシの排泄物にカビが発生し被害が拡大する恐れがあるので注意が必要です。

オオタバコガ：多発は稀だが、1頭の食害量が多く実害になりやすい。トウモロコシだけでなくナスやトマト、キャベツ、ゴーヤなど多くの作物に被害をもたらします。

トマトの管理

～適期管理により、灌水・芽かき・摘果を行う事が重要です。安定的な品質や収量を確保する為にしっかりと行いましょう！！～

1. 灌水

定植前の2日間は植穴に約2ℓ灌水。定植後1週間程度は1日2回、植穴に1ℓ灌水を行って下さい。**根が活着したら(葉つゆがついたら)、少量多灌水を行う。**

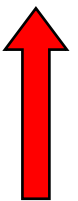
※少量多灌水とは、少量の水を時間をかけながら回数を重ねて与える灌水方法。

【活着後の灌水方法】①～④のとおり

- ① 1株当たり200ccを毎日灌水7日間。
- ② その後1株当たり300ccを毎日灌水7日間。
- ③ その後1株当たり500ccを毎日灌水10日間。
- ④ その後1株当たり800ccを毎日灌水10日間。

トマト空洞果

トマトの果実内に空洞ができ、実が詰まっていない症状。



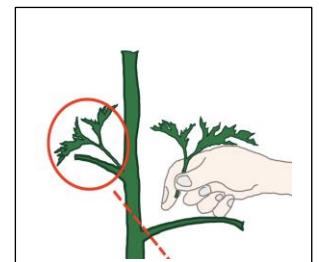
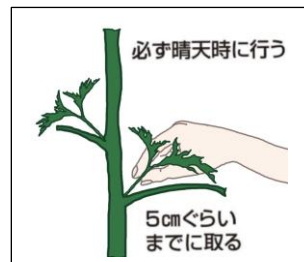
2. ホルモン剤の使用

- ・ トマトトーン100倍で、**3花開花した花房に使用し確実に着果させる。**
- ・ 霧吹きでさっと1～2回かけ、先端の若い芽にかからないよう花房を手で覆いながら噴霧する。
- ・ 1つの花に何回もホルモン剤を使用すると、**空洞果の発生が多くなるので注意する。**

トマトトーン

3. 芽かき

わき芽は小さいうち(5cm程度)にかき取る事が基本です。わき芽が大きくなってから取ってしまうと、**トマトのストレスになる上に、病気の原因にもなるので注意が必要です。**
こまめな手入れを心掛けましょう！！



4. 摘果

適切な生育の、生長点の太さは鉛筆程度で、樹体全体の太さは16mmのイボ竹以下です。適正な生育の株は、果実が500円玉～ゴルフボール大の時に摘果しましょう。

- ・ 1～2段は3果/果房にする。 ・ 3段以降は4果/果房が基本です。

※収穫が終了するまで安定的に着果させる様にしましょう！！

5. 追肥

- ・ 葉面散布～草勢管理の微調整は葉面散布剤で行います。

資材名	成分比	希釈倍率	使用量	備考
パワフルグリーン1号	4-6-4	500～900倍	100ml/m ²	小面積でトマトを作っている栽培者向け

- ・ 通常追肥～1番果がなり始めたら追肥を行う。

資材名	成分比	使用量	備考
園芸化成s550	15-15-10	10g/株	